公立世羅中央病院だより No.181

意外と怖い動物咬傷（どうぶつこうしょう）

整形外科　向井（むかい）　俊平（しゅんぺい）

皆さんの中には、イヌやネコなどと一緒に生活されている方も多いと思います。早朝の散歩を日課としている方や、家の中で一緒に生活し、心の支えとなっている方もいらっしゃるでしょう。また、自分では飼っていなくても、ご近所のイヌと触れ合ったり、野良ネコのお世話をする方もいると思います。今日はそんな身近な存在である動物たちが時として牙をむく、動物咬傷（どうぶつこうしょう）についてのお話です。

・動物咬傷ってどんな傷？

動物に咬まれることで起こる傷です。咬まれたことで動物が口の中に持っていた細菌が傷から体内に入ってきます。イヌに咬まれた場合、4～20%で感染が起こるといわれています。ネコに咬まれた場合、更に確率が高くなり、60～80%で感染が起こるともいわれています。一見するとイヌのほうが体格や牙も大きく、感染の確率が高いと思われがちですが、ネコの牙は細く鋭いため、より深くまで突き刺さるのが原因と考えられています。感染の原因となる細菌によって症状は異なりますが、咬まれた部位が赤く腫れて痛みが出ることが多いです。イヌの場合、犬種にもよりますが、咬む力が強いため、咬まれた部分の傷が大きくなり、皮膚や組織が咬み切られて傷が閉じなかったり大きな傷あとが残ったりすることがあります。

・咬まれた場合はどうすればいい？

咬まれた部位をよく洗浄することが重要です。応急処置として流水でキズをよく洗い流して、できるだけ早く病院を受診してください。出血が多い場合は、ガーゼやきれいなタオルなどで強く押さえて病院を受診してください。ネコに咬まれた場合は傷が小さいため、自宅で様子を見る方が多いですが、油断は禁物です。30代後半の元気な女性が、咬まれて１～２日で感染がひどくなり集中治療室に入った症例を経験したことがあります。自分で、この傷なら大丈夫という判断をするのは危険です。

・どのような治療を行う？

抗菌薬（飲み薬、又は点滴）を用いて治療します。場合によっては破傷風という病気を予防するために筋肉注射を打つことがあります。傷の治療についてですが、まず流水でしっかりとキズの中まで洗浄します。場合によっては局所麻酔や伝達麻酔という麻酔をかけて痛みを取りのぞいた後に、小さな傷をあえて針やメスで広げ、内部までブラシなどを用いて徹底的に洗います。中に膿がたまらないようにチューブを入れておく処置を行うこともあります。抗菌薬と傷の洗浄どちらも非常に大切で、咬まれてからできるだけ早く治療を開始することが大切です。時間が経過すると、傷口にいた細菌が血液にのって全身にまわり、敗血症という全身の臓器の障害が起こることがあります。

どのような病気、けがも予防が最も大切です。動物咬傷でこられた患者さんの話を聞くと、今日はいつもと様子が違って興奮していた、普段は関わらない近所のイヌに触ったなどとおっしゃる方が多い印象です。防げるけがは防ぎつつ、家族の一員であるイヌやネコたちと良好な関係を続けていければ良いですね。